

quinn emanuel trial lawyers

quinn emanuel urquhart & sullivan, llp

los angeles new york san francisco silicon valley chicago washington, d.c. houston tokyo london mannheim hamburg munich moscow paris hong kong sydney brussels

知的財産分野において求められる「グローバル人材」

Ryan Goldstein

Head of Tokyo Office

Quinn Emanuel Urquhart & Sullivan, LLP

Attorney Advertising.
Prior results do not guarantee a similar outcome.

クイン・エマニュエル

クイン・エマニュエルは、750人超のトライアル・ローヤーを有する米国最大の弁護士事務所です。

私たちはアメリカのみならず、世界での訴訟戦略の遂行にあたり、アジア・ヨーロッパ・アメリカ・オセアニアの四大陸の18か所に事務所を擁し、多くの企業のご要望にお応えしています。

パートナー弁護士等が代理を手掛けたトライアル、仲裁は2,300を超えています。私たちはビジネス訴訟の多くの分野において、トップ5の法律事務所に位置づけられています。これらの私たちの評価、そして豊富なトライアル経験は、被告側代理人を務める際にはよりよい和解や被告側勝訴の陪審評決を勝ち取るためのお役に立てるでしょう。また、原告側代理人として、私たちは和解や判決によりこれまで420億ドルを勝ち取ってきました。これらの豊富な経験を携えて、ご依頼者/企業の皆様の利益を最優先し、パートナーシップを大切にしています。



知的財産訴訟に関する主な評価

私たちは知的財産訴訟業務において世界でトップクラスの実績をあげています。150人以上の弁護士が化学または工学系の学位を取得しています。知的財産訴訟に関する直近の主な評価は次のとおりです。

主な受賞歴

- Law 360の「恐怖の四天王」、4度受賞
- Asialaw Asia-Pacific Dispute Resolution Awards 2015 において、Best in IP受賞
- IAM Patent 1000 - The World's Leading Patent Professionals において、Highly recommended
- ドイツ、JUVE誌により年間最優秀知的財産法律事務所、年間最優秀特許法法律事務所
- アメリカン・ローヤー誌の2012年IPリティゲーションデパートメント(知的財産訴訟部門)オブザイヤーにおけるファイナリスト
- ナショナル・ジャーナル誌により2013年Appellate(上訴) Hot List選出
- マネージング・インテレクトチュアル・プロパティ誌の最高賞を受賞
- コーポレート・カウンセルズ・IP・インサイダー誌の最も多忙な特許訴訟部門トップ5
- ロンドン、The Lawyer誌の国際法律事務所第一位
- マネージング IP誌のITC国際貿易委員会訴訟部門第一位に2度受賞

東京オフィス

クイン・エマニュエルが初めて開設した海外オフィス スムーズなコミュニケーションで世界各地と連携を図る

日本企業の日本国外における訴訟ニーズに応じて、日本企業への助言を専門的に行っています。日本語が堪能な評価の高い訴訟弁護士のみで構成。他の海外オフィスと異なり、日本国内の訴訟を手掛けることはありません。しかし、東京オフィスの弁護士は、日本語、日本企業そして日本の文化への理解を活かしてアメリカ及びヨーロッパでの紛争に対応しています。

東京オフィスのパートナー弁護士は皆、アメリカでの豊富な訴訟経験を有しています。ディスカバリー及び(必要であれば)トライアルの遂行にあたって、日本企業への指針を示す独自の専門性を培ってきました。日本語が堪能であるからこそ、文書の収集及び提出から重要証人(多数の特許発明者など)の準備及び防御にいたるまで、訴訟のあらゆる段階においてより近い関係を築くことができます。

また、複雑な法律問題及び時に生じる技術的な問題について、法務部及び知的財産部や証人とコミュニケーションを取ることができるため、ディスカバリーの費用をコントロールすることができます。

東京オフィスの弁護士は日本語が堪能です。複雑な知的財産権、特許訴訟をはじめ、クラスアクション(集団訴訟)、製造物責任、ホワイトカラー調査及び海外腐敗行為防止法(FCPA)調査、そして仲裁などのあらゆる形態のビジネス訴訟を手掛けています。

東京オフィスの弁護士は、直近18か月だけでも3件のアメリカでのトライアルを行いました。日本の商習慣に精通しているため、日本企業特有の長所を生かし、より良い和解を獲得、訴訟の長期化を避けることにも長けています。また、世界各地のオフィスに所属する知的財産専門の弁護士等と常に協力して、コスト効率が高く、かつ効果的な訴訟代理業務をクライアントに提供しています。

主な受賞歴

- Ranked by Chambers Asia Pacific for Japan Dispute Resolution: International Firms
- Business Litigation Law Firm of the Year in Japan - Corporate Intl Magazine
- Business Litigation Law Firm of the Year in Japan - Global IP Experts
- The Legal 500 Asia-Pacific 紛争解決、知的財産権訴訟の分野で高評価
- Benchmark Asia-Pacific 2014 - The Definitive Guide to the Leading Disputes Firms and Lawyers in the Region - Euromoneyにおいて高評価

Ryan S. Goldstein

ライアン・S・ゴールドSTEIN

クイン・エマニュエル外国法事務弁護士事務所 東京オフィス代表 パートナー

日本経済新聞社の「今年活躍した弁護士」、カリフォルニア州40歳以下の優秀な弁護士に贈られる「Top 20 Under 40」をはじめ著名法律誌のタイトルを多数獲得。法律専門誌IAMはlitigation分野において、広範囲にわたるエレクトロニクス関連訴訟において勝利を収めた功績について「多言語を操る、辣腕コミュニケーター」等と評している。日本語堪能。

主要取り扱い業務は、ホワイトカラー犯罪/FCPA、特許や知的財産訴訟、反トラスト、クラスアクション、製造物責任、犯罪捜査、名誉毀損、契約/詐欺紛争などの複雑なビジネス訴訟など広範囲。ITC訴訟・国際仲裁も担当。日本企業の代理を務める際の独自のノウハウには定評がある。

同志社大学、東京大学法科大学院、ほかで講師として後進の指導。知財高裁10周年記念シンポジウム、レクチャー兼パネリスト。産経新聞主催のIPフォーラムでは基調講演を務めた。訴訟業務に基づいた最新情報やアドバイスを、日本経済新聞、産経新聞、ダイヤモンドオンライン等50超の媒体に提供している。

東京大学 大学院法学政治学研究科・法学部 非常勤講師

同志社大学 法学部 非常勤講師

Education

ハーバード大学法科大学院 1998年卒業 (J.D., magna cum laude, 1998)

早稲田大学 大学院商学研究科 1993-1995年(文部省奨学制度)

ダートマス大学 1993年卒業 (B.A., summa cum laude, Phi Beta Kappa, 1993)

Ames Moot Court Competition セミ・ファイナリスト1997

Awards

Chambers Global 2016年、2015年(日本における紛争解決)

Chambers Asia-Pacific 2016年、2015年、2014年(日本における紛争解決)

The Legal 500 Asia-Pacific 2015年、2012年(Leading individuals 紛争解決、Recommended Lawyer 知的財産他)

IAM Patent 1000 2015年(日本における外国法)

Benchmark Asia-Pacific 2014年(Local Disputes Star 仲裁、反トラスト法、知的財産、クラスアクション)

日本経済新聞 2013年(今年活躍した弁護士 外国法部門)

The Daily Journal 2008年(Top 20 Under 40)



知的財産分野に求められる「グローバル人材」とは

説得力のあるネゴシエーターの特徴

- 知的、かつ雄弁であるのは当然。これら以外に重要なのは...
- 真の到達点が見えている
- 柔軟性に富んでいる
- 洞察力がある
- 強みの活かし方を知っている(人柄の良さ、感情の豊かさ、常に真剣な態度)

日本企業がはまる落とし穴

- 権限委譲
- 十分な権限を与えない
- 人員過多（会議や交渉の場で大勢で臨む）

「文化」というハードルに挑む

- 中小企業ではあまり見られない問題(大企業特有の動きの鈍さ)
- 取締役会から任される異なる権限(取締役会とは別に権限を持った組織を持つ)
- 内部で確固たるリーダーシップをとる
- マインドセットの転換: 失敗を恐れる現状維持マインドから自己改善を目指すチャレンジマインドへ